



TSUBAMATE



WASEDA University

# 新潟県燕市・社団法人つばめいと & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2023

## 地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

## おススメのポイント！

- 現地調査の実施を含む対面・オンライン各形式のハイブリッドで進める課題解決プログラムです
- 市長をはじめ地域住民の方々に、直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

## テーマ

### 「多様な人材の活躍促進」の実現に向けて 地域外から来た人材の定着を促す施策を提案せよ

江戸時代よりまちをあげて金属に関わる製品をつくり続けている燕市。現在、金属洋食器の国内シェアは 90%を超え、ノーベル賞の晩餐会や G7 で各国首脳へのお土産として燕市製品が採用されるなど、全国トップレベルの金属加工技術を誇ります。

そんな、「ものづくり」産業が売りの燕市であっても、若年層の人口流出超過は深刻な課題です。近年、燕市内の製造業関係者は、人口減に伴う産業の担い手不足を解消すべく、海外からの労働者を積極的に採用し始めており、それに伴いベトナムやミャンマーなどの外国人労働者が増加しています。一方で外国人労働者の定着には課題があり、約半数が 1 年以内に退職を希望しているというデータもあります。

外国人労働者に限らず、地域外から転入してきた人々の居心地の良いまちづくり、仕組み作りは結果的に人材の流入を促進し、多様な人材が地域に定着することにつながります。企業単体だけでなく、地域全体で地域外から訪れた方々の暮らしへ関心を持ち、より快適な生活を支える環境を整備するにはどのような施策が必要でしょうか。本プログラムでは、地域外から燕市に転入してくる人々を対象として、生活の質を向上させるための環境や仕組みづくり、また具体的なツールを提案いただきます。

## 燕市の魅力

燕市は新潟県の中心に位置し、上越新幹線の「燕三条駅」は東京から約 2 時間で到着します。

日本屈指の金属加工品の産地として有名ですが、その他にも、日本さくら名所 100 選に選ばれる「大河津分水桜並木」は、約 10km にわたり植えられたソメイヨシノが堤防沿いに咲き誇ります。また、江戸時代末期の禅僧であり、

詩人・歌人・書家でもあった良寛が晩年を過ごし、その芸術性が円熟期を迎えた地でもあります。車で 30 分も走れば海も山も温泉もあり、産業から生まれた「背脂ラーメン」などつばめっこソウルフードめぐりなど休日の過ごし方も様々です。2 月は新潟県全域で雪が多く降る時期ですが、燕市は比較的雪の少ない地域であり、程よく雪のある生活、四季を楽しめます。



# 募集概要

募集期間	2023年12月1日（金）～12月17日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	<b>原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと</b>
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	<p><b>事前説明会（オンライン）について【応募の際には必須参加】</b> 日程：<u>12/6（水）、12/11（月）、12/15（金）12:30～12:55（全日程）</u> ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メールもしくは教育連携課 Web 上でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（<u>12:55～13:10</u>）も上記日程で実施します。</p> <p><b>事前説明会参加後、以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から応募ください</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① MyWASEDA にログイン</li><li>② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2023 春編」を検索</li><li>③ 「地域連携ワークショップ 2023 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請</li></ol> 
選考方法	書類選考：結果通知は <b>2023年12月27日（水）までにWasedaメール</b> にて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	<ol style="list-style-type: none"><li>① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。</li><li>② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、燕市内となります。</li><li>③ <b>【重要】公式日程以外にも、自主的にグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。</b></li><li>④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。</li><li>⑤ 自己負担費用：往復交通費（自宅⇔現地集合場所）・食費等 ＜交通費目安＞東京駅～燕駅片道 8,580 円（新幹線/指定席、在来線） ＜宿泊先＞<a href="#">つばめ産学協創スクエア</a>（相部屋） ※つばめいと提供により宿泊費はかかりません <b>※但し、県の制度利用により交通費の半額補助が後日あり、交通費の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。</b></li><li>⑥ <b>【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。</b></li><li>⑦ 当ワークショップは複数の地域（第2希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。</li><li>⑧ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。</li><li>⑨ ワorkshop実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、<b>公欠扱いとはなりません。</b></li><li>⑩ グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。</li><li>⑪ ワorkshopでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、あらかじめご了承ください。</li><li>⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※新型コロナウイルス等の状況によって、プログラム内容等に変更が生じる場合があります</li></ol>
問合せ先	教務部教育連携課（ <a href="mailto:rbso@list.waseda.jp">rbso@list.waseda.jp</a> ） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

# ワークショップスケジュール（公式日程）

	予定	日程	内容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2024年 1/24（水） 16:30～19:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ</li> <li>・自治体担当者からの説明</li> <li>・自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明</li> <li>・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明</li> </ul> <p>※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。</p>
②	交流会 @早稲田大学	2/5（月） 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める</li> <li>・フィールドワーク前の注意事項確認</li> </ul> <p>※交流会後はグループワーク用に会場開放予定</p>
③	事前調査期間	オリエンテーション～ 2/18（日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燕市やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる</li> <li>・ヒアリングに関する事項（希望先、質問内容等）を検討し、2/7（水）までに自治体へ提出</li> <li>・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク</li> </ul>
④	現地調査前 オンラインヒアリング （@Zoom）	2/14（水） 2/15（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う</li> </ul> <p>※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようになしてください。</p>
⑤	フィールドワーク @燕市	2/19（月）～ 2/22（木） 【3泊4日】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燕市内の該当施設などを訪問</li> <li>・市長をはじめ、市の関係者の方々へのヒアリングを実施</li> </ul> <p>【鈴木市長懇談：2/19（月）11:00～12:00】</p>
⑥	現地調査後 オンラインヒアリング （@Zoom）	2/26（月） 2/27（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う</li> </ul> <p>※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようになしてください。</p>
⑦	対面グループワーク @早稲田大学	2/27（火） 10:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会前にグループワーク</li> </ul> <p>※時間帯は参加学生の都合を確認し決定</p>
⑧	中間報告会 @早稲田大学	2/29（木） 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容の報告</li> <li>・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定</li> </ul> <p>※報告会後はグループワーク用に会場開放予定</p>
⑨	対面グループワーク @早稲田大学	3/5（火） 10:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会での指摘を踏まえてグループワーク</li> </ul> <p>※時間帯は参加学生の都合を確認し決定</p>
⑩	プレ報告会 @早稲田大学	3/7（木） 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習</li> </ul> <p>※報告会後はグループワーク用に会場開放予定</p>
⑪	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～3/11（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ</li> <li>・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）</li> </ul>
⑫	最終報告会 @早稲田大学	3/12（火） 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約2時間）</li> </ul> <p>※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1時間程度）を実施するため、解散時刻は13:00頃となります。</p>

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

# 実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く  
↓
- 事前調査：  
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。  
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。  
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化  
↓
- 現地調査・ヒアリング：  
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）  
↓
- 最終提案資料作成：  
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる  
↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での  
打合せや Zoom 等で議論を進める

## 過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

### ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

### チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

### 「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々それぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしやることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていき延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）